多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2012 年 1 月 31 日

派遣者氏名（専門分野）	生野 昌範 （ インド学・仏教学 ）
-------------	--------------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	古代インド仏教の受戒儀礼に関する写本研究
-------	----------------------

派遣期間

2011 年 10 月 4 日 ～ 2011 年 12 月 5 日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問研究機関	ドイツ	ゲッティンゲン	ゲッティンゲン大学	Thomas Oberlies 教授
	ドイツ	ミュンヘン	ミュンヘン大学	Jens-Uwe Hartmann 教授

派遣先で実施した研究内容

古代インドの仏教を研究対象とする研究は主として文献学であるが、現在では基礎となる文献の内に学術的に利用することができないものも存在している。それらの文献は写本から再校訂することにより不備・不足・問題点を速やかに是正することが現在待ち望まれており、徐々にではあるがそれらの文献の再校訂が行なわれてきている。そこで、再校訂が必要と認識されているにもかかわらず、まだなされていないテキストを写本資料に基づいて再校訂することが今回の派遣先での研究目的である。具体的には、仏教の出家者として承認し、仏教僧団に入団させる儀礼である受戒儀礼を規定している文献の内の一つである『カルマヴァーチャナー』の再校訂、及び読解研究を行なった。

1. ゲッティンゲン大学には大量の写本資料が保管されている。その中には、受戒儀礼に関連する文献の写本資料も含まれているので、その資料を閲覧し、複写した。また、ゲッティンゲン大学には、Katalogisierung der orientalischen Handschriften in Deutschland という機関が設置されており、その機関に所属している K. Wille 博士は 20 世紀初頭以降に発見された仏教関連の写本に関して精力的に研究し、写本研究を推進している数少ない研究者の内の一人である。彼から、受戒儀礼に関する写本に関してだけでなく、それ以外の仏教文献の写本に関しても教示を受けた。
 - a. ゲッティンゲン大学には、‘Xc 136’ という記号を付された『カルマヴァーチャナー』のネガ写真が保管されているので、これをデジタルカメラで撮影するとともに複写機を用いてデジタルデータによる複写を行なった。また、受戒儀礼を受ける前の段階にある者に関して記述している『スプタールター・シュリーガナーチャーラサングラハティーカー』（Xc 14/62）の写本資料の複写を行なった。さらに、写本資料が存在することは知られているが、現在までのところその校訂テキストが作成されていない『プラーティモークシャストラティーカー』（Xc 14/61）の複写を入手した。
 - b. 上記のネガ写真の複写を用いて、『カルマヴァーチャナー』の再校訂を行ない、その上で読解研究を行なった。その際、『カルマヴァーチャナー』と同じく男性の志願者のための受戒

儀礼を記述している『ウパサムパダー・ジュニャプティ』と女性の志願者のための受戒儀礼を記述している『ビクシュニー・カルマヴァーチャナー』を併せて利用することによって、受戒儀礼に関するより正確かつ包括的な理解を得るよう努めた。また、報告者の作成した『カルマヴァーチャナー』の再校訂テキストに関して、K. Wille 博士と数回にわたる討議を行ない、より正確な再校訂テキストを作成した。

2. ミュンヘン大学の J.-U. Hartmann 教授は、最近発見された新たな写本に取り組んでおり、ゲッティンゲン大学の Wille 博士と並んで写本研究を推進している中心人物の一人である。その彼が、ミュンヘン大学で毎週火曜日午後 2 時から写本に関する研究会を開催しているので、11 月 22 日に行われた研究会に参加した。報告者が参加した研究会では、近年新たに発見され、しかも今までサンスクリット語写本が知られていなかった『ディールガアーガマ』の写本の内の『ローヒティヤ』の校訂テキストの作成とそれに基づく翻訳、及び関連するサンスクリット語文献とパーリ語文献、並びに漢訳文献における並行箇所との検討が行われた。発表の際には、プロジェクターを用いて、実際の写本を目にしながらか、Hartmann 教授、A. Mette 教授、O. von Criegern 助教をはじめとした出席者全員による討議が行われた。研究会終了後も、写本に関する意見交換を行ない、最新の情報を入手した。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

1. 『カルマヴァーチャナー』に関しては、予定外の写本資料を入手することができ、それを用いて再校訂テキストを作成し、読解研究を行なった。その上で、Wille 博士と数回の討議を重ねて、より正確な再校訂テキストを作成した。
2. 当初の研究計画では『カルマヴァーチャナー』と同じく男性の志願者のための受戒儀礼を記述している『ウパサムパダー・ジュニャプティ』に関する再校訂は不必要となった。その代わりに、出版された『ウパサムパダー・ジュニャプティ』の再校訂テキストを利用することによって、より正確な『カルマヴァーチャナー』の読解研究を行なうことができた。
3. 受戒儀礼を受ける前の段階にある者に関して記述している『スプタールター・シュリーガナーチャーラサングラハティーカー』の写本資料の複写、及び現在までのところテキストが作成されたことのない『プレーティモークシャストラティーカー』の写本資料の複写を入手し、今後これらの文献について研究を行なうための資料を蒐集した。
4. 写本研究の最前線にあるゲッティンゲン大学、及びミュンヘン大学で写本研究に従事している研究者たちとの人的ネットワークを確立した。

派遣後の研究発表の予定

『カルマヴァーチャナー』の再校訂テキストは、国内あるいは国外の学会誌に英文で発表した後に、ゲッティンゲン大学のウェブ・サイト [Göttingen Register of Electronic Texts in Indian Languages (GRETIL)] 上にて公開する。また、『カルマヴァーチャナー』に基づいた受戒儀礼に関する研究は、『印度學佛教學研究』あるいは『佛教史學研究』などの査読付き雑誌に論文を公表する。